

2021/9/13 令和3年度東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修

YouTubeによる講義・演習

# 園内研修で育む保育者の資質能力



岐阜聖徳学園大学 西川 正 晃

✉ [masaaki@gifu.shotoku.ac.jp](mailto:masaaki@gifu.shotoku.ac.jp)

👉この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

あなたが大切にしている保育の見方・考え方はどのようなものですか？

●ワーク2

園内研修では、子どもを中心に保育の実践を行うために、どのようなことをしてきましたか？

●ワーク3

「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を意識して、ドキュメンテーションをつくってみよう！

●ワーク4

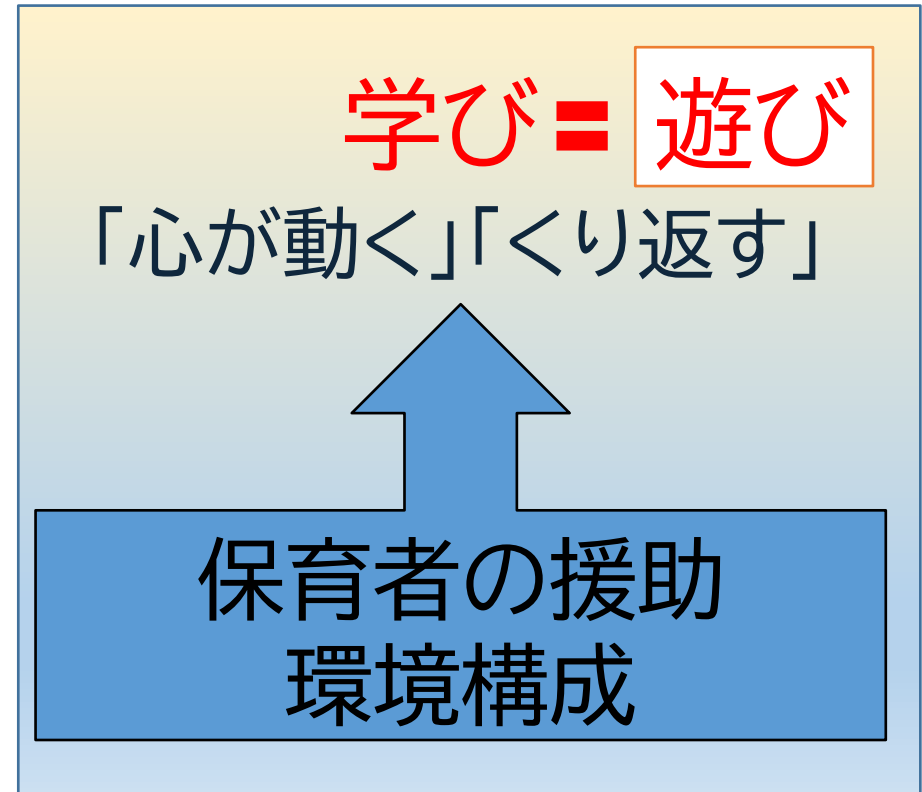
保育者の資質能力を高める視点で、これからの園内研修でやってみたいことは何ですか？

# 保育とは何か？

## 幼児期の教育における見方・考え方

幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。その際、幼児が環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになることが大切である。

幼稚園教育要領解説 p28



概要版

鳥取県幼児教育振興プログラム(第2次改訂版)

# 遊びきる子ども

～遊びを通した育ちと学びを未来へつなぐ～



質の高い  
幼児教育

教育・保育の  
相互理解



専門性の  
向上



関係機関が  
つながる

家庭教育を  
支える

令和元年11月  
鳥取県教育委員会

鳥取県幼児教育センター

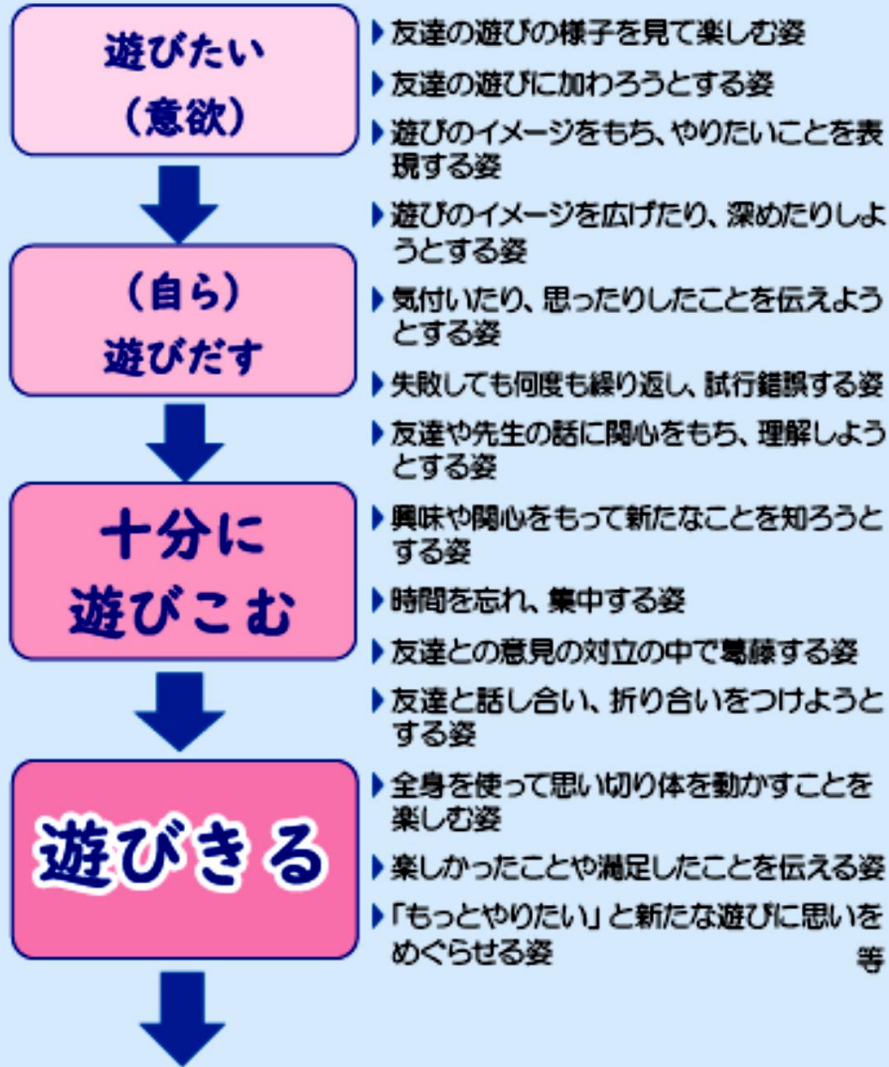


遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。自発的な活動としての遊びが充実し、遊びに集中する中で、保育者や友達に自分の思いを伝えたり、考えを表現したりしながら**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが遊びきることにつながり、**遊びきる**ことで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。

この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びのイメージや見通し、エネルギーを生み出すことにつながります。このような遊びの繰り返しが、義務教育以降の学びの土台となる力を育むこととなるのです。

鳥取県教育委員会「概要版 鳥取県幼児教育振興プログラム(第2次改訂版)」2019年

# 大切にしたい子どもの姿



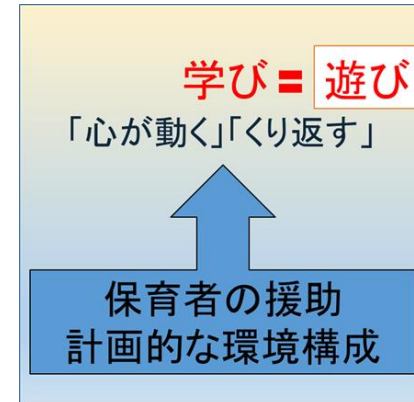
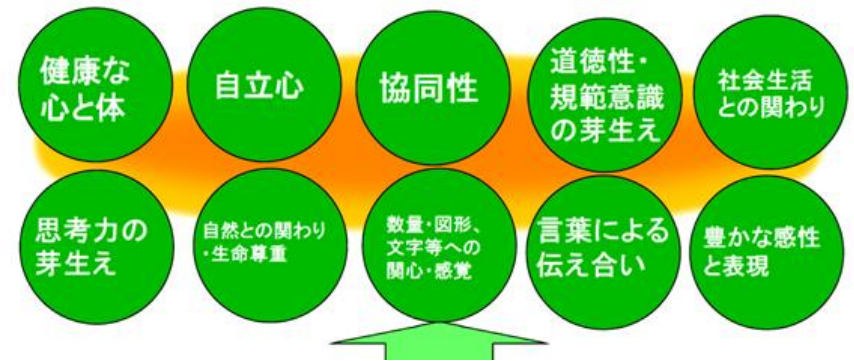
「遊べる」とは一人一人が、試行錯誤したり、挑戦したりする中で、自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達と関わって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であると捉えられます。この経験が「自己肯定感」を育むことにつながります。



遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。もとより、幼稚園教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

幼稚園教育要領解説 p52



## 小学校以降の学び

### “就学前の教育・保育”は、“木の根を太く・大きくするようなもの”

日々の成長は目には見えにくいですが、

子どもは**遊びを通した学び**によって  
多くのことを身に付けています

それが、将来、花開くことになるのです

尼崎市は**「たくわえて花開く力」**を育みます



尼崎市就学前の子どもの教育・保育についての基本的な考え方 リーフレット(案)より

幼児の生活は、そのほとんどは興味や関心に基づいた自発的な活動からなっている。この興味や関心から発した直接的で具体的な体験は、幼児が発達する上で豊かな**栄養**となり、幼児はそこから自分の生きる世界や環境について多くのことを学び、様々な力を獲得していく。興味や関心から発した活動を十分に行うことは、幼児に充実感や満足感を与え、それらが興味や関心を更に高めていく。

幼稚園教育要領解説p34

## 幼児期の学び



## 【幼児教育の意義及び役割】

この幼児期の発達の特性に照らした教育とは、**受験などを念頭に置き、専ら知識のみを獲得することを先取りするよ**うな、いわゆる**早期教育とは本質的に異なる。**

幼児教育は、目先の結果のみを期待しているのではなく、生涯にわたる学習の基礎を作ること、**「後伸(あとの)びする力」**を培うことを重視している。

幼児は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、豊かな感性を養うとともに、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解できることにつながる**「学習の芽生え」**を育てている。

このような特質を有する幼児教育は、幼児の内面に働き掛け、一人一人の持つ良さや可能性を見いだし、その芽を伸ばすことをねらいとするため、小学校以降の教育と比較して**「見えない教育」**と言われることもある。

中央教育審議会答申(抄)「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」  
－子どもの最善の利益のために幼児教育を考える－平成17年1月28日

👉この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

あなたが大切にしている保育の見方・考え方はどのようなものですか？

●ワーク2

園内研修では、子どもを中心に保育の実践を行うために、どのようなことをしてきましたか？

●ワーク3

「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を意識して、ドキュメンテーションをつくってみよう！

●ワーク4

保育者の資質能力を高める視点で、これからの園内研修でやってみたいことは何ですか？

子どもを中心に保育実践を行うための  
保育者の資質能力とは？  
-保育カンファレンス-

# 子どもを中心に保育の実践を考える

～保育所保育指針に基づく保育の質向上に向けた実践事例集～

2019（令和元）年6月

厚生労働省

# 自園の保育を 捉え直す ～子ども を中心とした視点から～

## (改善・充実に向けた取組を進めていく に当たってのポイント と課題)

○こうしたことを踏まえ、本編(基本編)では、各保育所等において、難しさを感じていることや、今後充実させたいことに関して取組を進めていく際、共通して重要になると思われる主なポイントとして、以下の3つを示しています。

I : 職員間の 共通理解

II : 日々の保育の振り返り

III : 保護者や地域の人々との関係づくり

○さらに、上記の各ポイントに関連して考えられる具体的な課題も併せて例示した上で、これらを踏まえて、どのような工夫や配慮が考えられるのか、今後の取組を考える際に参考になると思われる事例を次編(事例編)に示しました。



# I : 職員間の共通理解

○子どもを中心に自分たちの保育のあり方を考え、**保育の質を確保・向上**させていくには、自園の保育に関する職員間の共通理解を高めていくことが不可欠です。自園の保育の理念や方針、子どもの姿や家庭に関する情報等を共有するとともに、日々の保育が子どもの主体性を尊重したものとなっているか、園の理念が保育実践に反映されているかといった視点から、自分たちの保育の実践(例えば、行事のあり方や保育の形態など)の現状や課題を組織全体で改めて検討してみることが大切です。

○このように職員間で保育に関する共通理解を図っていく過程において、子どもの姿について語り合うことは、職員一人一人にとって、自分自身が気づかなかった子どもの姿を知るだけでなく、同じ場面について、異なった視点からの捉え方があることを知り、「子どもの理解」のあり方を学び、深めていく機会になり、**自らの保育を省察することにもつながります。**

○こうした保育に関する共通理解の促進に当たっては、日常の打ち合わせなどの他、**園内研修を活用**することなどが考えられます。その際、指導する側とされる側、評価する側とされる側といった関係ではなく、相互に学びあう関係となるよう、互いに相手の話を共感的に聞く姿勢を持つことが重要です。

## Ⅱ 日々の保育の振り返り

○継続的に保育内容の充実を図り、保育の質を向上させていくためには、日々の子どもの姿や育ち、保育士の関わりや保育の環境構成などについて、保育の各現場において、**日々の記録等をもとに振り返ることが重要**になります。

○保育の振り返りから子どもに対する気づきを得て、子どもの内面や発達についての理解を深めていくことは、**子どもの実態に即して保育を充実**させていくことにつながっていきます。

○こうした日々の保育の振り返りを踏まえ、保育の見直しを行うことで、保育実践の改善や充実の方向性や手立てが明確になっていきます。それらは、明日の保育や、翌週・翌月の保育の計画に反映されるとともに、子どもが自ら関わり、豊かな活動が展開されるような環境を構成していくことにつながります。こうした**保育の振り返り**と**見直しを繰り返していくこと**を通じて、**より良い保育が展開**されていきます。

# 保育者の仕事の特徴

## 特定性

保育実践において、対象は特定の子どもであり、子どもの集団。保育者もまた固有名の特定の保育者。とりあげる教材や内容も具体的な実践においては特定性を有する。

## 複合性

保育の場合、特定の保育者が、特定の子どもや集団に、特定の内容で教える複合的な構造。

## 個別性

どの教材を選ぶのか、どのように解釈するのか、その内容をどのような形態で、どのように保育を展開するのか判断、決定。

## 実践の自己評価と見直し

実践者としての成長は、実践の反省によって可能。個別的をこえ、保育者の共同的な検討によって成長につながる。保育の専門性の形成にとって重要。

## 保育者の成長

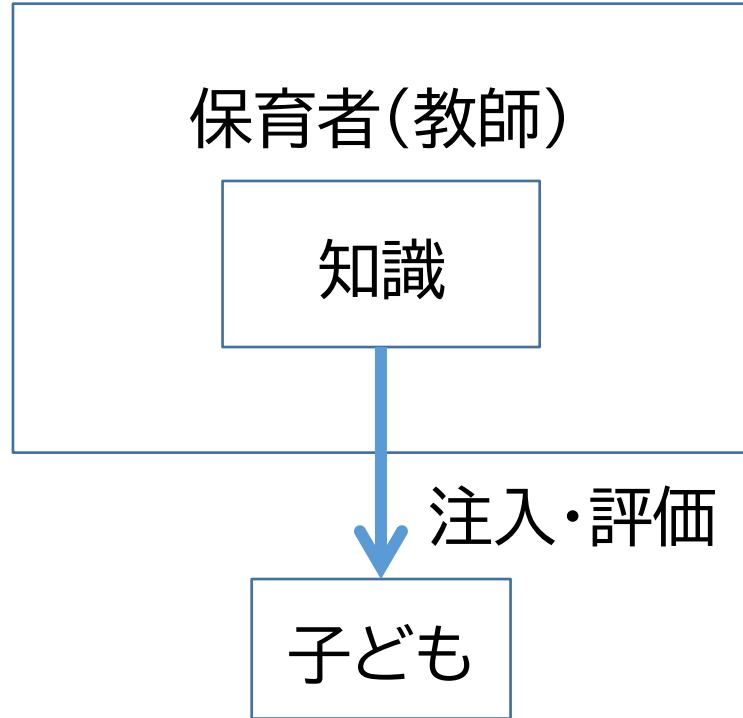
保育とは、一つのマニュアルに即して、決められたことをその通りに行うものではない。ルーティン化できるものでもなければ、一般化して語られるものでもない。特定の子どもたちに対して、多くの価値観があふれる史実や事象、概念の中から、保育者が教材としての価値観を決定し、それをどのように体系づけていくのかが自らの責任の中で問われていくものである。その営みの中には保育者自らの「自律性」が存在しなければならないのである。

稲垣忠彦「教師教育の創造」評論社、2006

西川正晃「教師の専門性と教師教育の可能性－「自律性(autonomy)にみるprofessional developmentという考え方」－」関西国際大学教育総合研究所第1号、2008

# 注入型と参加型

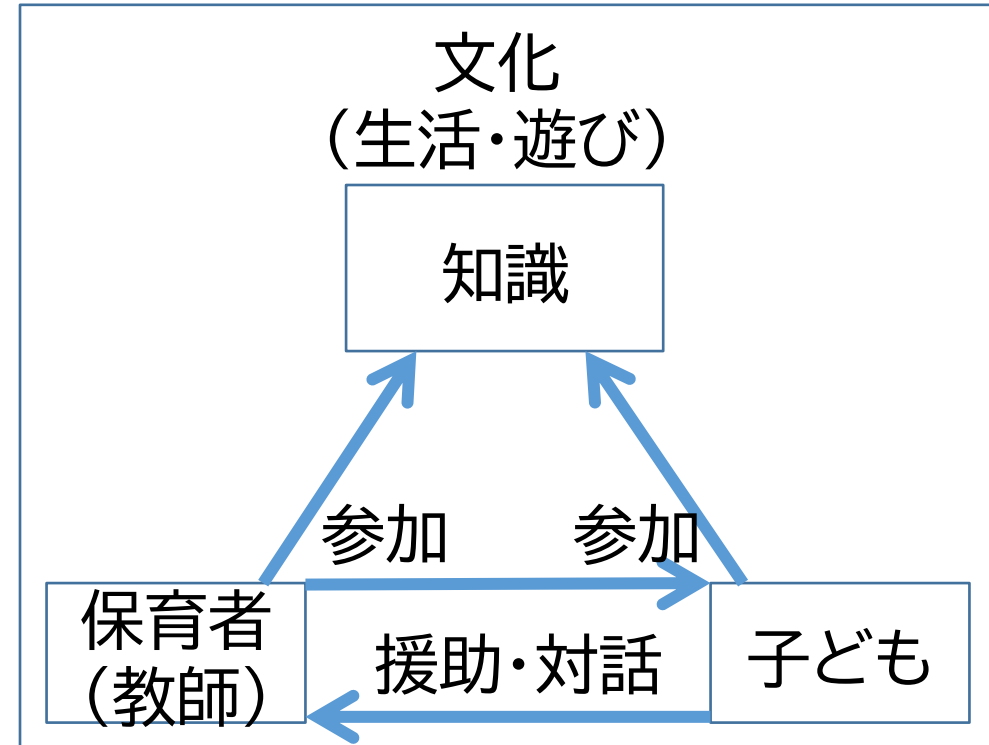
## (a) 注入型



幼児教育の質を支える要素  
保育者もまた導く主体・・・保育者の主体性は、  
子供の主体性を尊重し育成することを含ん  
だ二重の主体性に基づいている。

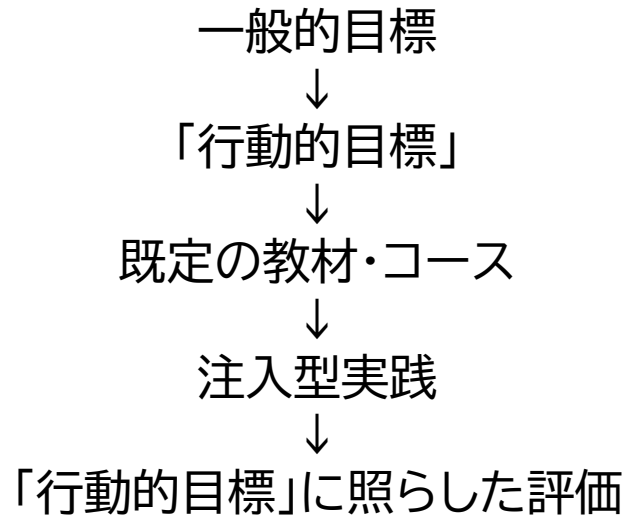
幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会(第2回)、令和3年8月10日

## (b) 参加型



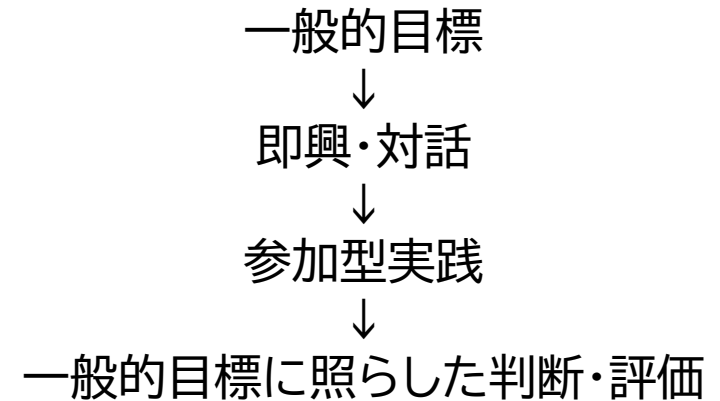


## 工学的接近(technological approach)



保育者の意図した計画(例:ひな人形をつくろう)に基づき、行動的目標(例:折り紙と毛糸でひな人形をつくる)が決められ、その中に、意図的な教材配列(つくるための材料準備やつくり方・つくる順番など)が包含される。保育者が設定した「行動的目標」に照らし合わせて評価され、定型化・画一化した結果となることが多い。

## 羅生門的接近(rashomon approach)



子どもたちの創造的な活動を展開するために、一般的な目標(例:ひな人形をつくろう)のもとに、**即興(対話的關係において、十分な子ども理解に基づく)**で実践が展開されること。そこで行われる評価は、目標にとらわれない評価であり、子どもと保育者との営みの中で生まれる価値を、様々な視点や立場から解釈していく。多様で豊かである。

「工学的接近」と「羅生門的接近」の対比—目標、教材、教授・学習過程—(文部省,1975,p.50、p.52、p.54 の表を引用し、再構成したもの。)

## 工学的接近 (technological approach)

「行動的目標を」  
「特殊적であれ」

教材のプールからサンプルし、  
計画的に配置せよ

既定のコースをたどる

教材の精選・配列、指導の方法

# 「教材」を重視

## 羅生門的接近 (rashomon approach)

「非行動的目標を」  
「一般的であれ」

実践の中で教材の価値を  
発見せよ

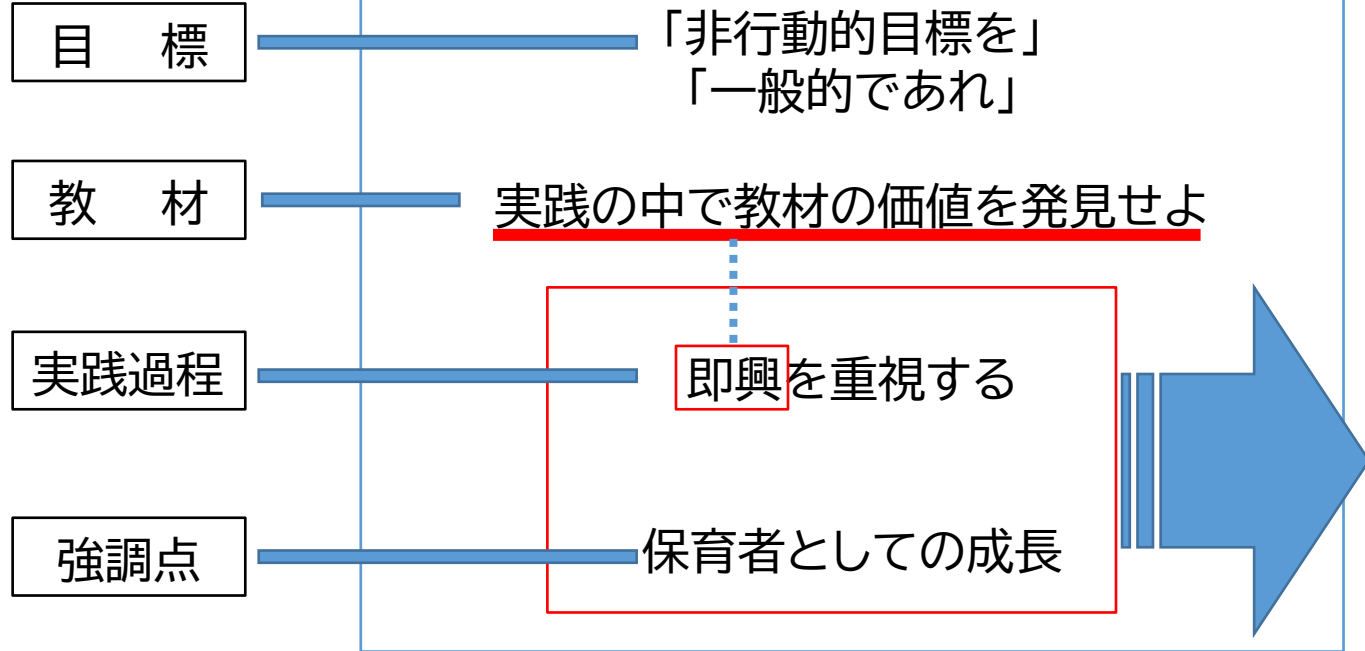
**即興**を重視する

保育者としての成長

# 「保育者」を重視

「工学的接近」と「羅生門的接近」の対比—目標、教材、教授・学習過程—(文部省,1975,p.50、p.52、p.54 の表を引用し、再構成したもの。)

## 羅生門的接近 (rashomon approach)



「工学的接近」と「羅生門的接近」の対比－目標、教材、教授・学習過程－  
(文部省、1975、p.50、p.52、p.54の表を引用し、再構成したもの。)

### 保育者

対話的な遊びの主体者  
共同体の中での協働的な実践者

①子どもの興味・関心(必要感)を知る。  
**幼児理解を深める**

②遊びのおもしろさ・可能性を理解する。  
**次の保育を構想する**

即興性の育成 = 保育者としての成長 (Professional Development)

カンファレンスとは、1980年代、稲垣忠彦(東京大学教授、滋賀大学教授、帝京大学教授を経て、信濃教育会教育研究所長など歴任)によって提唱された臨床研究である。

元々は医療現場で用いられていた手法で、一つの症例に対して、教授から助手、研修医、麻酔医師、看護師など様々な立場の人間がそれぞれの立場から最善の治療方法について検討するのである。一つの症例から、それぞれの立場にたった責任感や専門性から、対等な立場からより有効な治療へと誘うための様々な視点が出されていくのである。

こうした検討・研究は、それぞれのプロフェッションとしての力量を深め、高い資質能力を形成していくことになる。カンファレンスを教育の実践現場においても導入することにより、教師としてのプロフェッションを形成する時間として位置づけていこうとしたものである。

## 研修・勉強会

- ① 解決策や正解を求めたり、同じ保育観や子ども観を共有することを目的とする傾向。
- ② 「教えるー学ぶ」という上下関係が話し合いの基盤となる傾向。

## カンファレンス

- ① 「正解」を求めようとしない。
- ② 「本音」で話し合う。
- ③ 園長や先輩による若年保育者の指導の場にしない。
- ④ 批判や論争をしない。
- ⑤ それぞれの成長を支え合い、育ち合う。

森上史郎「特集 保育を開くためのカンファレンス. 発達68」ミネルヴァ書房, 1996



- 1 対等性
- 2 羅生門的接近
- 3 ゴールフリー



多様性の出現と獲得 = 保育のポケットを膨らませる  
保育者の資質能力の形成

# 有効に機能するための3要因

- 「発言の対等性」
- 「話の具体性」
- 「実践との循環性」

# 保育カンファレンスの進め方

- ①問題提起
- ②問題の明確化
- ③代替可能な解決策の算出
- ④意志決定
- ⑤解決策の実施と検証

社会的問題解決モデル(問題解決療法)を利用したカンファレンス(下田、1998)

# カンファレンスにおける社会的問題解決モデルの応用

## ①「問題提起」

- 日常の保育で気になること、気になる子どもの全体像をあらかじめ書いてもらい、その結果を保育者にフィードバック。「気になる子どもの行動」を具体的に書いてもらい、グループで発表。
  - 話し合いを抽象的なものにしないため、自己の問題を深く見つめられるようにするために、子どもの様子を事例として**具体的に**記述
  - 事実と解釈(わかっている事とわからない事)を区別し、**事実**を記述する

# カンファレンスにおける社会的問題解決モデルの応用

## ②「問題の明確化」

現時点での事実を整理し、問題はどこから出てくるのか「原因追求」を行うとともに、本当の問題は何か再確認する。

## ③「解決策の算出」

問題に対してどう対処したらよいかいくつかの可能な方法を話し合う。

# カンファレンスにおける社会的問題解決モデルの応用

## 話し合いの約束

「量の原則」「判断延期の原則」「多様性の原則」

- ①思いついたことを躊躇なく話す
- ②できるだけ多くの意見を言う
- ③相手の意見を否定しない
- ④話し合いで出された内容は、メンバー全員が見える形にまとめて書き出す

# カンファレンスにおける社会的問題解決モデルの応用

## ④意志決定

出された選択肢を評価し、最良の選択肢を選ぶ。

## ⑤解決策の実施と検証

選択された解決策が実生活の問題場面において有効であったかどうかを検証する。



👉この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

あなたが大切にしている保育の見方・考え方はどのようなものですか？

●ワーク2

園内研修では、子どもを中心に保育の実践を行うために、どのようなことをしてきましたか？

●ワーク3

「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を意識して、ドキュメンテーションをつくってみよう！

●ワーク4

保育者の資質能力を高める視点で、これからの園内研修でやってみたいことは？

# ドキュメンテーションとは？

## Ⅱ：日々の保育の振り返り

○継続的に保育内容の充実を図り、保育の質を向上させていくためには、日々の子どもの姿や育ち、保育士の関わりや保育の環境構成などについて、保育の各現場において、**日々の記録等をもとに振り返ることが重要**になります。

○保育の振り返りから子どもに対する気づきを得て、子どもの内面や発達についての理解を深めていくことは、子どもの実態に即して保育を充実させていくことにつながっていきます。

○こうした日々の保育の振り返りを踏まえ、保育の見直しを行うことで、保育実践の改善や充実の方向性や手立てが明確になっていきます。それらは、明日の保育や、翌週・翌月の保育の計画に反映されるとともに、子どもが自ら関わり、豊かな活動が展開されるような環境を構成していくことにつながります。こうした保育の振り返りを見直しを繰り返していくことを通じて、より良い保育が展開されていきます。

## 幼児期にふさわしい評価の在り方

日々の記録や、実践を写真や動画などに残し可視化したいいわゆる「ドキュメンテーション」、ポートフォリオなどにより、幼児の評価の参考となる情報を日頃から蓄積するとともに、このような幼児の発達の状況を保護者と共有することを通じて、幼稚園等と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進めていくことが大切である。

幼児教育部会における審議の取りまとめ

## 「ドキュメンテーション」とは？

- ① **保育者**にとってドキュメンテーションは、子ども理解を深める情報源、職員同士の話し合いのリソースとして用いられる。
- ② **子ども**にとってドキュメンテーションは、自分たちの活動を振り返り、新たな発見や知識生成のきっかけを提供することにつながる。
- ③ **親**にとってドキュメンテーションは、園における我が子の様子を知ることができるのはもちろん、我が子がどのように活動しているのか、なぜそのように活動しているのかを理解することができる。

# ラーニングストーリー(Learning Story)



ラーニング・ストーリー(Learning Story)は、ニュージーランドの多くの乳幼児を対象とした施設で実施されている、観察と記録による子ども理解の方法です。ラーニング・ストーリーは、自らも保育者であったワイカト大学(Waikato University)のマーガレット・カー(Margaret Carr)を中心に開発されました。

ラーニング・ストーリーは、**保育者や保護者が、子ども一人ひとりの興味・関心や気持ちなどに目を向けて「子どもが肯定的に見えるようになるための視点」**(大宮、2010)を培っていく方法。



# ラーニングストーリー(Learning Story)



子どもを見る視点としての「テ・ファリキ」の5つの要素。

- ①Wellbeing  
(心身の健やかさ)
- ②Belonging  
(自分の居場所を持っている)
- ③Contribution  
(積極性)
- ④Communication  
(言語や文化の多様性を大切にする)
- ⑤Exploration  
(経験を通じての学び、探求)



# ラーニングストーリー(Learning Story)



テファリキ  
ニュージーランドのナショナルカリキュラム(保育所保育指針や幼児教育要領にあたるもの)

幼児教育の主役である子どもの主体性を大切にしているだけでなく、保護者の意向も同じ様に尊重され、保育者の主体性も大切にしている。これにより、子どもを取り巻く大人達も、強制されるのではなく、主体的に幼児教育に携わることができ、子どもにとってそのことは、成長と発達にとっても重要だと考えられている。

# ラーニングストーリー(Learning Story)



「お店に行って楽しくなって、帰りがらない。自制心がないのかな？調子にのって大変！」

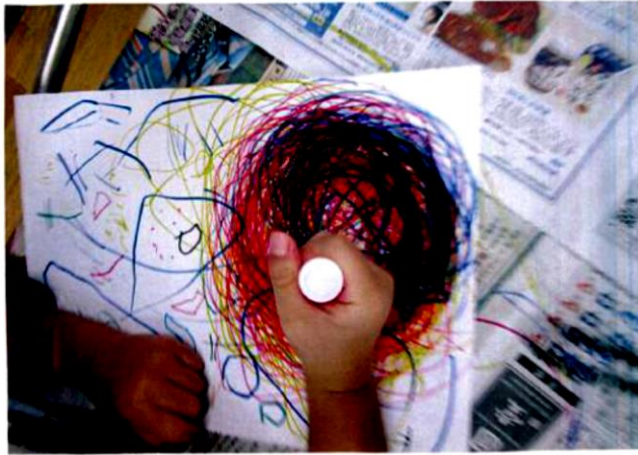
→「たくさんのおもちゃに、好奇心わくわく。おもちゃを見たらすぐ、遊び方を思いつくきみは、考える力が成長中。ほかの子にも、遊び方を教えたりして、すごいなあ！ 頭と体が刺激されて楽しそう。でも、ママは疲れたよ…！」

キーワード  
Contribution  
積極性  
Exploration  
経験を通じての学び、探求





力強さに木も...



子どもが力強さを伝えているのか？  
ハシの線も、線を交差している。  
何となくに描かれています。作品から...  
どこを取っても、木々が倒れる時は  
交差する。と、これらにこの交差に  
集まっています。いつか（土土）は  
木満足

# 絵の表現  
# 個性と表現

ママのおなかのなかにはね...



「もうすぐお姉ちゃんになるの」「ママのお腹の中には...」と毎日  
お姉ちゃんになることを楽しみにしている女の子。この日は「ママの  
お腹の中!!」と言った後、そう描き始めました。家はお腹の  
写真を見ているということを開き、このような絵に仕上がって  
いくのだと驚きました。

# ママのおなか  
# 絵に描いたエコー写真!!

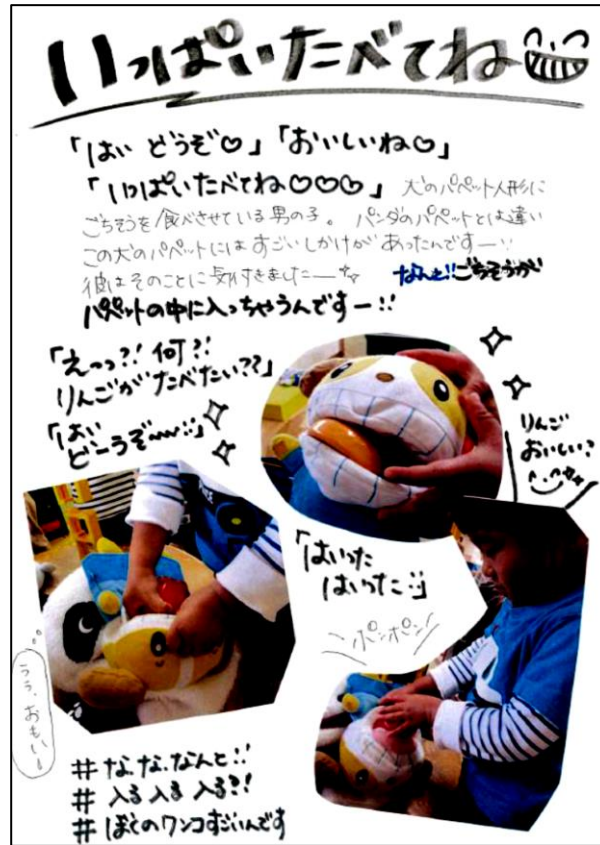
# もうすぐお姉ちゃん  
# お姉ちゃん、生まれるからね



最初はまじごとをしていたお友だちとすると  
一息づきのようにはんやり窓の外をむかめ  
始めました。「雨の日がうずいてるが」「外で遊び  
たいな」なんて言っているのかと？とふと  
目によまりました。子どもたちの頭の中には  
どんな世界が広がっているのでしょうか、一度  
のぞいてみたいですね。

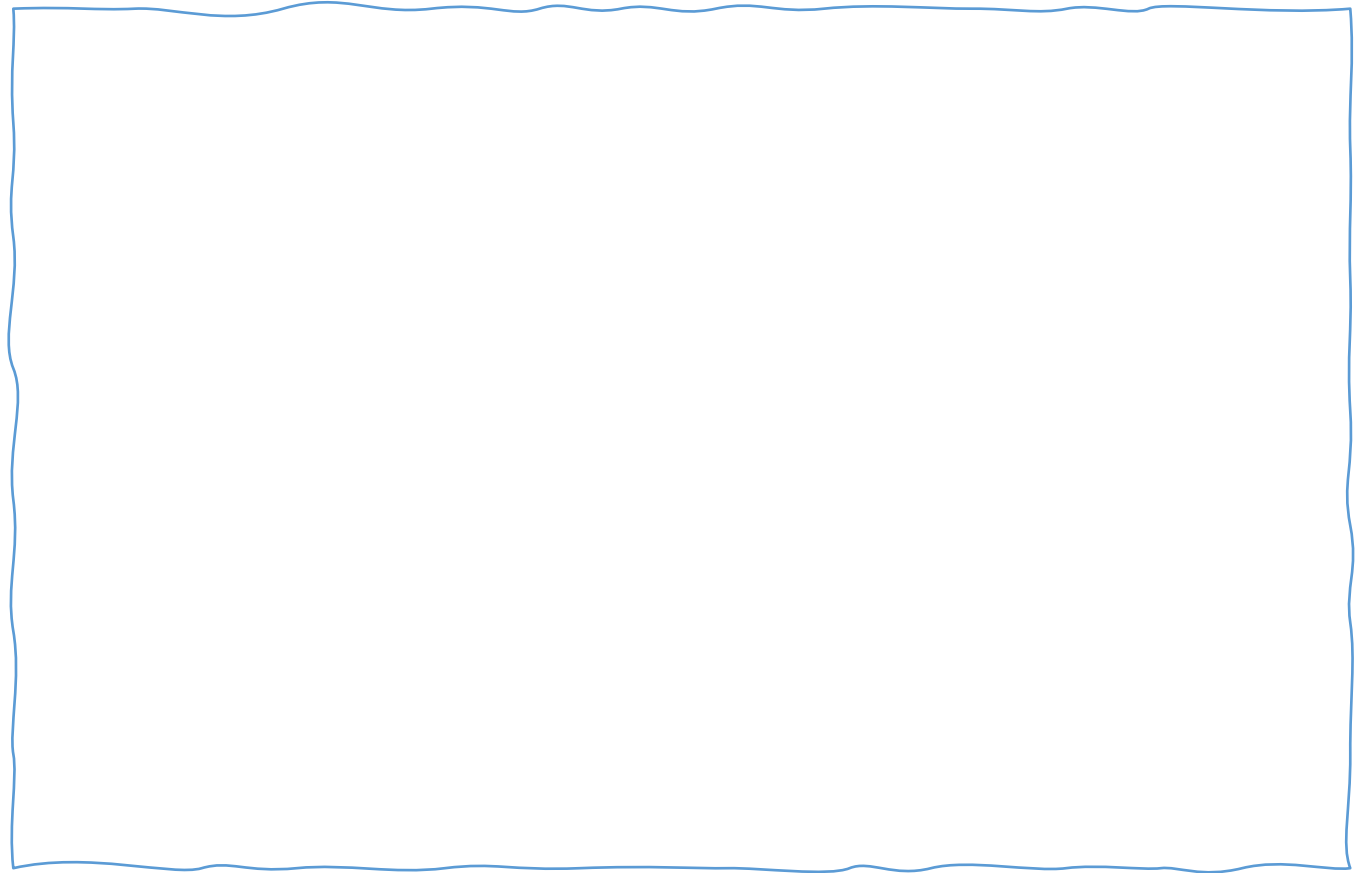
# 絵の表現  
# 明日の天気はいいかな  
# 絵の表現

# インスタグラムの保育記録(ドキュメンテーション)をつくってみよう！！



- 用紙はA4サイズ程度。写真1～3枚程度。
- 保育者の心揺さぶられた場面を切り取ろう。
- テーマ(13文字以内)とキャプション(140文字程度)で綴ろう。
- キャプションには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とけ込ませて書こう。
- ハッシュタグ( #・・・注意! #ではない!)を活用して楽しさ・面白さをアップしよう。
- 慣れてきたら10分で完成。

# インスタグラムの保育記録の一例



👉この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

あなたが大切にしている保育の見方・考え方はどのようなものですか？

●ワーク2

園内研修では、子どもを中心に保育の実践を行うために、どのようなことをしてきましたか？

●ワーク3

「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を意識して、ドキュメンテーションをつくってみよう！

●ワーク4

保育者の資質能力を高める視点で、これからの園内研修でやってみたいことは何ですか？



# カンファレンス、園内研修の実際

# Q17なぜスタイはタオルにゴムなの？



2歳児。タオルにゴムのスタイだから、自分でゴムを広げて頭からかぶって食事の態勢になれます。

ハンドタオルにゴムを通したスタイだと、自分でスタイを着脱することができます。保育者が食事の準備を始めたのを見て、子どもは椅子に座り、自分からテーブルに置かれたスタイを着けて食事をする準備ができます。子どもは「これから自分は食事をするよ」という意志をもってスタイを着けるので、「ごちそうさま。食事は終わったよ」と自分からスタイを外すことにつながります。

食事をすることは受け身な行為ではありません。0歳児から「自分が食事をするんだ」という意思を発揮する主体的な行為です。

さらに、スタイの着脱をすることで、腕を頭上に上げたり、自分の頭が入るようにゴムを伸ばしたりなど、自分の目では確認できない体の部分(頭)に気づいたり、左右前後など空間感覚も知るきっかけになるのです。







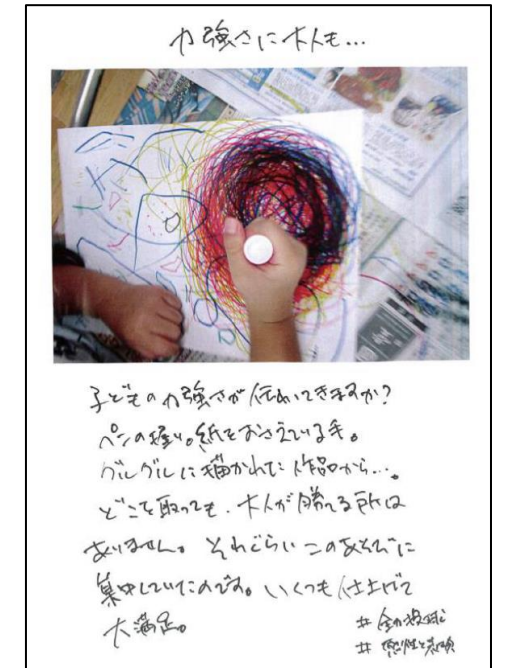
## 2歳児【ペンによるなぐりがきの場面】

A保育士:存分に力を入れて描ける楽しさを楽しんでいる。

B保育士:妊娠中の母親のお腹の中をイメージ。

C保育士(担任):自分の名前の一文字「ま」を書こうとする行為と、なぐりがきの二つの行為。

- 多様な経験年数・立場からの描き出しと、その解釈の共有。(対等性)
- 一つの場面からの多様な子ども理解や解釈。(羅生門的接近)  
M保育園でのカンファレンスの実際
- どの解釈が正しいかの判断を延期。(ゴールフリー)





## カンファレンス (6月)

対象…保育士 (3~4名ずつ)

時間…30分程度 ドキュメンテーション提供者…各自で相談して下さい。

|                        |                |
|------------------------|----------------|
| ① 6月3日 (木)<br>13:30~   | 杉本・石丸・谷口・吉川ゆ   |
| ② 6月8日 (火)<br>13:30~   | 栗原・山本・谷内・岸     |
| ③ 6月11日 (金)<br>13:30~  | 村上・石河・上田・辻井    |
| ④ 6月14日 (月)<br>13:00   | 西田・谷垣・田中・北田    |
| ⑤ 6月16日 (水)<br>13:30~  | 田村・西尾・福井・中鹿    |
| ⑥ 6月21日 (月)<br>13:30~  | 松村・奥山・橘・後藤・石丸  |
| ⑦ 6月23日 (水)<br>13:00~  | 上野・千代・田嶋・梅木・牧野 |
| ⑧ 6月25日 (金)<br>29日 (火) | 池元・首藤・吉川き・木心村  |

\*時間の設定は各自前日の13:00までに記入してね。

## カンファレンス (7月)

6/28 (月)  
16:00 32"

対象…保育士 (3~4名ずつ)

時間…30分程度 ドキュメンテーション提供者…各自で相談して下さい。

|             |       |
|-------------|-------|
| ① 7月1日 (木)  | 梅木・後藤 |
| ② 7月2日 (金)  |       |
| ③ 7月5日 (月)  | 石丸・池  |
| ④ 7月8日 (木)  |       |
| ⑤ 7月13日 (火) |       |
| ⑥ 7月14日 (水) |       |
| ⑦ 7月19日 (月) |       |
| ⑧ 7月26日 (月) |       |

\*時間の設定は各自前日の13:00までに記入してね。

👉この講義では4つのワークがあります。ワークのスライドでは動画を止めて、テーマについて考えてみましょう。

●ワーク1

あなたが大切にしている保育の見方・考え方はどのようなものですか？

●ワーク2

園内研修では、子どもを中心に保育の実践を行うために、どのようなことをしてきましたか？

●ワーク3

「幼児期の終わりまでの育ってほしい姿」を意識して、ドキュメンテーションをつくってみよう！

●ワーク4

保育者の資質能力を高める視点で、これからの園内研修でやってみたいことは何ですか？